

中心市街地活性化調査特別委員会調査報告書

平成17年12月20日市議会において付託された、中心市街地活性化に関する諸種調査については、次のとおりである。

本市は平成の大合併により市域が広がっており、各地域でまちづくりの問題が山積しているなかで、なぜ中心市街地に力を注ぐのかという確認から本委員会の議論は始まった。

中心市街地においては環状線などの都市計画道路などの整備による郊外への発展、公共施設の郊外移転によって中心部の空洞化が進んでいる状況である。また、特に車社会の進展、郊外大型商業施設の進出、長引く不況による購買力の低下が進んでおり、中心市街地の吸引力が著しく低下し、かつての賑わいがなくなっているという状況である。

さらに、郊外開発は、地球環境保全の観点やエネルギー消費型社会の脱却という観点から問題があり、少子高齢化社会で人口が減少するなか、道路・上下水道など大規模なインフラ開発は将来の維持管理にも多大なコストを要するため、すでにインフラ整備がなされている中心市街地をリニューアルし、環境負荷や財政負担の少ないコンパクトなまちづくりを目指すことが望まれている。

こうした状況を鑑み本市の中心市街地において、大規模な再開発事業や街路整備といったハード事業を先行してきたが、計画と現状との乖離が目立ち、(株)まちづくり佐賀の破綻を招くなど中心市街地には閉塞感が広がった。この状況を打開すべく、平成19年にエスプラッツを再開したが、組合の破産や店舗の撤退など厳しい状況は続いている。

今後は、これまでの開発手法を見直し、きちんとした方向を見据えて、小さなことからでも確実に進めていく必要がある。そのために現地視察やまちづくりの関係者と意見交換を重ねてきた。合わせて、中心市街地の実態、先進都市の事例、国や県の動向等、調査を踏まえ、下記の結論に達した。

記

1. エスプラッツについては、「街づくり基点施設」として、今後も県、市、TMO、地元の商店街等と一緒に事業展開を図るとともに人が集まる工夫を行っていくべきである。

エスプラッツの活用はあくまでも中心市街地を活性化するきっかけであるため、中心市街地全体を視野に入れた活性化に取り組む必要がある。

2. 白山地区については、平成22年度までにハローワーク佐賀本庁舎が移転する予定で、移転後は、1日に1,000人以上の人の動きを生み出すと予想される。

この地区はエスプラッツと玉屋を結ぶ中心核エリアとして、まちづくりに重要

な場所であることを認識し、周辺駐車場の一体的な整備も含めた取り組みを行うべきである。

3. 呉服町地区のアーケードについては老朽化が進み、落下物も見受けられたため、最終的には道路管理者である市が、アーケードを撤去し、路面整備を行うこととなった。

アーケード撤去後の道路の利用形態については、地元の意向を尊重し、市は調整役として話し合いを行う必要がある。

4. 歴史的に価値のある資料を多く収蔵する徴古館については、鍋島家の膨大で重要な文化財の調査・整理に対し、佐賀市が積極的にバックアップする必要がある。また、周辺整備については、市で初めての歴史公園という位置づけのもと、人が集うような特色のある公園整備を進める必要がある。

さらに、第1期整備計画で活用を見合わせる事となった徴古館の北西に位置する県有地については、第2期整備計画の事業を立ち上げる時期に、一体的に整備を行うため、再度県に対し活用を打診するべきである。

以上、報告します。

平成21年9月17日

中心市街地活性化調査特別委員長

江頭弘美

佐賀市議会議長

福井久男様